

## 6月のアルミレポートおよび7月の見通し(上)

## 橋本アルミ(株) 橋本健一郎氏



## 予測レンジ

LME	現物後場買い1500-1700ドル ● 変わらず
スクラップ	0から+5円(前月最終価格より) ● 変わらず
為替	102-106円(一か月間TTM) ☂ 円高

## ■概況

前半は、5月の米雇用統計待ちからの警戒感や4月の独小売売上高は前月比0.9%減、予想は0.9%増、5月の独失業者数は1.1万人減の269.5万人、予想は5000人の減少だった。失業率は6.1%で1990年以降最低などのマイナス材料もあったが、5月の米雇用統計の悪化で「景気見通しに新たな疑問が生じた」と指摘。利上げ時期の特定を見送り、市場で「6月利上げの可能性は下がった」との認識や、4月の米個人消費は前月比1%増、予想は0.7%増だった。個人消費の伸び率は6年8か月ぶりの大きな伸びだったことなどを好感しUP。

6月15日時点1605ドル(現物後場買い)と月初価格から59ドルUPの前半締めとなった。後半は、1Qの米GDP伸び率確報値は前期比1.1%増に上方修正。予想の1%増を上回る。

4月の米新築住宅価格指数は前年比5.44%上昇、予想は5.41%上昇だった事による米利上げ観測や英国のEU離脱懸念などのマイナス材料もあったが、FOMCでの利上げ先送り、英国のEU離脱を受けて混乱は続くものの、景気対策期待などのプラス材料を受けてUP

7月1日現在LME(現物後場)1622.5ドルと後半スタート価格から5ドルUPしてのスタートとなった。

## ■前月の経済指標

## ◆月間のドル/円レート(TTS)

111.67 → 103.75(円)

## ◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比+1.7%の64万5539台であった。

## ◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比+3%の28万7770台。

## ◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+9.8%の8万8728戸であった。

## ◆貿易指標

## 輸出

財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前年比+9.8%の157t、2次合金が+29.2%の1677t、スクラップが-7.6%の9556tアルミ缶が+74.2%の5116t。

## 輸入

輸入は新地金が前年比-8.3%の12万9389t、2次合金が+7.4%の8万97101t、スクラップが-38.6%の503t、合金スクラップは-42.1%の26987t。

## ■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比+2.6%の16万9795t

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績は前年比+3.8%の6万708tであった。

## ■概況

## 【自動車生産】

5月の四輪車生産台数は656,814台で、前年同月の645,539台に比べて11,275台・1.7%の増加となり、2か月ぶりに前年同月を上回った。

5月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。

1. 乗用車 - 554,070台で14,897台・2.8%の増加となり、2か月ぶりのプラス。このうち普通車は359,866台で26,693台・8.0%の増加、小型四輪車は115,705台で12,989台・12.6%の増加、軽四輪車は78,499台で24,785台・24.0%の減少。

2. トラック - 92,514台で3,044台・3.2%の減少となり、13か月連続のマイナス。このうち普通車は39,821台で3,505台・8.1%の減少、小型四輪車は24,600台で448台・1.9%の増加。軽四輪車は28,093台で13台・0.05%の増加。

3. バス - 10,230台で578台・5.3%の減少となり、6か月連続のマイナス。

5月の国内需要は331,587台で、前年同月比1.2%の減少であった。

(うち乗用車275,505台で前年同月比1.4%の減少、トラック55,307台で同0.5%の減少、バス775台で同21.1%の増加。)

輸出は前年同月比4.6%の増加。(実績)

## 【自動車販売】

6月の国内自動車販売台数(軽は除く)は28万7770台で前年比+3%。

## 2か月ぶりプラス

乗用車	+3.6%
貨物	-1.2%
バス	+15%

## 【住宅着工数】

・平成28年5月の住宅着工戸数は78,728戸で、前年同月比で9.8%増となった。また、季節調整済年率換算値では101.7万戸(前月比2.3%増)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で5か月連続の増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となった。

(持家)

前年同月比では4か月連続の増加(前年同月比4.3%増、季節調整値の前月比では1.1%増)。

(貸家)

前年同月比では7か月連続の増加(前年同月比15.0%増、季節調整値の前月比では0.4%増)。

(分譲住宅)

前年同月比では4か月連続の増加(前年同月比

7.9%増、季節調整値の前月比では3.1%増)。

(分譲マンション)

前年同月比では4か月ぶりの減少(前年同月比0.8%減)。

(分譲一戸建住宅)

前年同月比では7か月連続の増加(前年同月比18.0%増)。

※後半は明日以降の紙面にて掲載させていただきます。

## 銅建値は3万円引き上げの55万円、 月内建値平均は54万1,000円。

JX金属は14日、電気銅建値を3万円引き上げの55万円と発表し、同日から実施した。月内建値平均は54万1,000円。

14日入電のLME銅相場のセツルメントが4918.50ドル、同日発表のTTSレート105.15円で、換算した採算価格は、51万7,100円となり、建値と採算価格から見た諸掛りは3万2,900円。

直近6か月の建値推移は次の通り。(キロ当たり円、カッコ内は改訂日)

・2016年

2月=600(1) 590(4) 580(9) 550(15)

570(18)

平均576.0

3月=570(1) 600(4) 610(14)

平均601.8

4月=590(1) 570(6) 550(11) 570(14) 590(20)

610(25)

平均581.0

5月=560(6) 550(12) 540(24) 560(27)

平均552.2

6月=560(1) 540(6) 530(9) 520(17)

530(22)

平均534.0

7月=540(1) 530(6) 520(11) 550(14)

平均541.0

## 黄銅削粉20円引き上げの403円に。

関西の黄銅棒大手N社と三菱伸銅は14日、20円引き上げの403円にすると発表した。

## IoT推進のための横断技術開発プロジェクトに着手 NEDO

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO:古川一夫理事長)は8日、2030年の高度IoT社会の実現を目指し、革新的かつ横断的な基盤技術の開発に着手することを発表した。

あらゆるモノがインターネットにつながるIoT社会が進展するなか、大量のデータを社会のさまざまな場面で一層活用していくためには、技術シーズの更なる性能向上とシステム全体としての最適化が求められる。システムとしてデータを収集、蓄積、解析するために必要となる基盤・実装技術及びそれらに必要となるセキュリティ基盤技術等の研究開発を行うとともに、ユーザーとも連携し新技術の社会実装を進める。これによりIoT技術を用いて、社会・産業の変革と効率化を加速させる。

革新的基盤技術の開発(11件)は、次のとおり。

△超高効率データ抽出機能を有する学習型スマートセンシングシステムの研究開発(技術研究組合NMEMS技術研究機構) △超低消費電力データ収集システムの研究開発(㈱東芝) △インテリジェントIoTプラットフォームの研究開発(国立大学法人東

京工業大学) △トリリオンノード・エンジンの研究開発(国立大学法人東京大学生産技術研究所) △高速ストレージクラスメモリを用いた極低消費電力ヘテロジニアス分散ストレージサーバーシステムの研究開発(学校法人中央大学) △先進IoTサービスを実現する革新的超省エネルギー型ビッグデータ基盤の研究開発(国立大学法人東京大学生産技術研究所) △高速大容量ストレージデバイス・システムの研究開発(㈱東芝) △省電力AIエンジンと異種エンジン統合クラウドによる人工知能プラットフォーム(国立研究開発法人産業技術総合研究所) △超高速・低消費電力ビッグデータ処理を実現・利活用する脳型推論集積システムの研究開発(国立研究開発法人産業技術総合研究所) △組合せ最適化処理に向けた革新的アニーリングマシンの研究開発(㈱日立製作所) △Sensor-to-Cloud Security ~ ビッグデータを守る革新的IoTセキュリティ基盤技術の研究開発(国立大学法人横浜国立大学)

先導調査研究(1件)は、広域エネルギー制御の革新的セキュリティ基盤の研究開発(技術研究組合制御システムセキュリティセンター)のみ。